

## 資料2 全国学力・学習状況調査結果について

### (1) 本市の全国学力・学習状況調査結果について

#### 【概要】

文部科学省が全国の小学6年生及び中学3年生の全員を対象に、4月21日に実施した全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)について、8月25日結果を公表した。

- ・ 別添調査結果資料のとおり。

### (2) 本市における学力向上対策について

- 学力向上支援事業として、小中連携による協議会を開催し、授業改善に向けた取組みや、思考力・判断力・表現力を高めるための指導の在り方などについて研修を行ってまいります。5月7日(木)には第1回学力向上支援事業全体会議を開催し、「学びの型」の定着や活用力の育成を目指し、有識者の講演と研究協議会を実施いたしました。

また、本市の課題でもある算数科の学力向上を目指し、「算数科学力向上プロジェクト会議」を年5回開催し、市内各校の実践に関する検証や評価を行ってまいります。

- ※ 全体会は年2回
- ※ 各中学校区においてはそれぞれの計画により開催
- 指導主事による学校訪問や要請訪問を通し、各校の課題に応じた授業実践や指導力向上について、具体的な助言を行ってまいります。また、全国学力・学習状況調査の結果分析の例を各学校ごとに作成し、提供することにより、より具体的な協議ができるように配慮してまいります。
  - ※ 指導訪問はローテーションにより、毎年、全体の3分の2の学校で実施
  - ※ 要請訪問は各学校の計画により実施
- 本市が抱える教育課題の解決に向けた研究実践を行うため、研究推進協力校を委嘱し、研究の成果を研究公開等で全市に広める取組みを行ってまいります。
- 学校における教育活動の中で新聞を活用することにより、豊富な情報源とするとともに、コラム欄の活用による読解力の向上や、資料活用能力の向上、記事内容を基にした討論等による表現力の向上など、多岐にわたった学習効果を期待した取組みを行ってまいります。

- 学校においては、外部の人材を活用した効果的な教育活動ができるよう、また、学校外においては学習や体験活動の場が設定できるよう、中学校区を単位として「地域コーディネーター」を選任し、学校と地域の橋渡しを行いながら実態に即した教育活動を行ってまいります。また、市内4大学との協定に基づいた学生ボランティアによる長期休業中の学習支援を行ってまいります。(教育環境パワーアップ事業)
- 教員OBなどによる休日や長期休業中の学習を民間団体とともに実践し、学校外の学びの場を提供してまいります。(寺子屋郡山との共催)
- 次年度より使用する中学校教科用図書の採択に伴い、中学校学習指導計画を編集し、各学校に提供します。また、指導計画の中に、課題解決型の学習を取り入れるなど、活用力の育成にも配慮します。
- 教職員の指導力向上を図るため、教育研修センターの各講座と併せて、本市の学習課題を踏まえた「算数科の授業づくり学習会」や、各学校における「教職員スキルアップ研修：先進校派遣など」への補助、及び、英語指導の強化を図るべく、「国際人スキルアップ研修：英語指導助を活用した英語による研修」を実施してまいります。

# 平成27年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

### (2) 調査内容

- ① 教科に関する調査
  - 小学校：国語A・B、算数A・B、理科
  - 中学校：国語A・B、数学A・B、理科
  - ※A…主として「知識」に関する問題    B…主として「活用」に関する問題
- ② 質問紙調査
  - 児童生徒に対する調査（学習意欲、方法、環境や生活の諸側面等に関する調査）
  - 学校に対する調査（指導方法等に関する調査）

### (3) 調査対象

- ① 小学校：57校（6年生 3,010名）
- ② 中学校：28校（3年生 2,985名）

## 2 調査結果の公表

- 各教科における平均正答率
- 各教科における結果と課題及び改善策
- 質問紙調査の結果と改善策（本市の特徴を表す項目を抜粋）

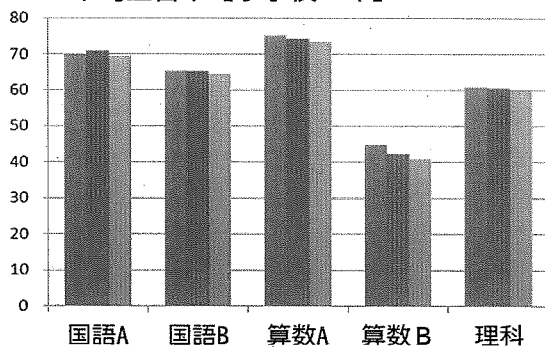
## 3 調査結果

### (1) 結果概要

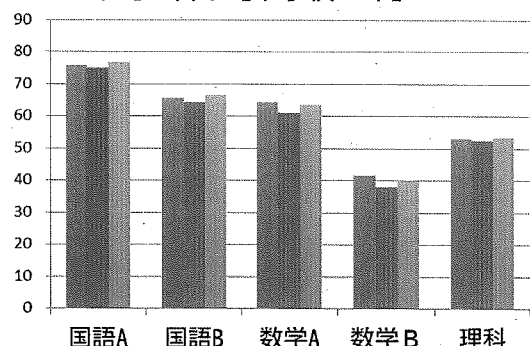
今回の調査で、小学校においては、国語A、国語B、理科はおおむね全国平均です。算数Aは全国平均をやや下回っており、算数Bは全国平均を下回っています。  
 中学校においては、国語Aが全国平均をやや上回っており、国語B、数学A、理科はおおむね全国平均です。数学Bは全国平均をやや下回っています。

### (2) 各教科における平均正答率

平均正答率【小学校6年】



平均正答率【中学校3年】



	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%	60.8%
福島県	71.0%	65.3%	74.3%	42.4%	60.7%
郡山市	69.4%	64.5%	73.6%	40.8%	59.9%

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%	53.0%
福島県	75.2%	64.5%	61.2%	38.1%	52.5%
郡山市	76.9%	66.5%	63.7%	40.2%	53.4%

## (2) 各教科における結果と課題、改善策

## 【小学校6年】

	結果	課題	改善策
国語A (知識)	平均正答率は全国比-0.6で全国と同程度です。「話す・聞く」の領域は全国比-7.6(昨年度0.0)となっています。	聞き方を工夫することと新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えることに課題があります。	聞き取った内容をメモしてまとめたり、新聞記事を読んで感想書いたりする等の学習を通して、話の内容や表現の工夫を的確に捉える力を育てます。
国語B (活用)	平均正答率は全国比-0.9で全国と同程度です。「書くこと」、「読むこと」は全国比マイナス(昨年度プラス)となりました。	文章と図を関係付けて考えを書くことや、取材した内容を整理して記事を書くことに課題があります。	文章、取材内容、図、表などから読み取ったことを関連付けて書く等、授業で書く機会を増やし、書くことの活用力を着実に伸ばしていきます。
算数A (知識)	平均正答率は全国比-1.6で全国をやや下回っています。「数量関係」は全国比+1.7でやや上回っています。(昨年度「数量関係」は全国比+3.0)	日常生活の中で必要となる時刻を求めることと円の性質から三角形の等辺を捉え二等辺三角形の底角の大きさを求めることに課題があります。	日常の場面と結びつけて時刻や時間の見通しを持たせる活動や、図形の特徴や性質など根拠を明らかにしながら、角の大きさや辺の長さ、面積を求める活動を工夫します。
算数B (活用)	平均正答率は全国比-4.2で全国を下回っています。全ての領域で全国比を下回っています。(昨年度「図形」が全国比+1.8)	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買い方を選択することと正三角形や合同な三角形の性質を基に、等角になる理由を説明することに課題があります。	日常の場面と結びつけ、1単位当たりの大きさを活用して解く問題を考える活動や、図形の特徴や性質を基にして、複雑な図形について説明をする活動を工夫します。
理科	平均正答率が全国比-0.9であり、領域別では「生命」が全国平均を上回り、「物質」、「エネルギー」は全国平均を下回っています。	記述式の全3問で全国平均正答率を下回っており、観察、実験で得られたデータを基に考察し記述することを苦手としている児童が多いことがわかります。	観察・実験を重視し、観察・実験の結果をもとに考えたり、話合って考えを深めたり、考えを整理して記述する活動等を1年間をとおして意図的・計画的に取り入れていきます。

## 【中学校3年】

	結果	課題	改善策
国語A (知識)	平均正答率は全国比+1.1で全国をやや上回っています。「書くこと」の全国比が+2.6(昨年度+2.2)で、昨年度からの向上が見られます。	「青い」と「青さ」の品詞名を選択することが全国比を下回り、単語の類別の理解に課題があります。	的確に読み取ったり、分かりやすく書いたりするために、文法の学習で習ったことを活用する指導を意図的に行い、単語に関する理解を深めます。
国語B (活用)	平均正答率は全国比+0.7で全国と同程度です。「話す・聞く」の全国比+1.6(昨年度0.0)で全国を上回っています。	文章の構成等を踏まえ、根拠を明確にして書くことに課題があります。	根拠の示し方を「型」として幾つか示し、数多く書く経験を積ませることにより、根拠を明確に示して自分の考えを書いたり話したりする力を育てます。
数学A (知識)	平均正答率は全国比-0.7で全国と同程度です。全ての領域で全国比をやや下回っています。(昨年度「図形」が全国比+1.2)	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることと連立二元一次方程式を解くことに課題があります。	2つの数の関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして、2つの関係を式に表す活動を多く取り入れます。
数学B (活用)	平均正答率は全国比-1.4で全国をやや下回っています。全ての領域で全国比をやや下回っています。(昨年度「関数」が全国比+1.5)	与えられた式を基に事象における2つの数量関係が比例であることの判断と、与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を説明することに課題があります。	小学校での学習を振り返りながら、日常の場面と結びつけて2つの数の関係(比例・反比例・1次関数など)を明らかにして問題解決の方法を考える活動を多く取り入れます。
理科	平均正答率が全国比+0.4であり、分野別では「物理」「化学」「生物」は全国平均を上回り、「地学」で全国平均を下回っています。	「気象」についての設問の全6問中3問で正答率が50%を下回っています。また、記述式問題の無解答率が高くなっており、実験結果の考察等を記述することに課題があります。	量や速度等について計算したり考えたりする学習では、日常生活での実用的な場面と関連付けて、実感をとおして理解できるモデルや教材による学習活動を工夫していきます。

(3) 質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%を上回っている主な項目】

質問事項	小学校	中学校
朝食を毎日食べていますか。	95.5%	94.2%
算数(数学)の勉強は大切だと思いますか。	92.8%	83.1%
授業で扱うノートには、学習のめあて(ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。	92.7%	85.3%
友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	92.7%	91.9%
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。	85.5%	85.8%

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%を下回っている主な項目】

質問事項	小学校	中学校
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはありますか。	47.7%	35.4%
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	46.3%	46.3%
普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上、読書を読みますか。	40.6%	32.5%
普段(月～金曜日)、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりするのは1日あたり2時間未満ですか。	35.4%	46.1%
新聞を週に1～3回程度以上、読んでいますか。	19.5%	15.8%

80%以上の児童生徒は、勉強の大切さを自覚し、授業では、めあてやまとめをノートに書いたり、友だちの話や意見を最後まで聞いたりすることができているようです。朝食を毎日食べ、ニュースに関心を持つなどの生活習慣についても良好であることが窺われます。

これらの結果を、文章を書くことの活用力や算数・数学の学力向上に生かすことができるよう、本市「新聞活用事業」などにより、本や新聞を読む習慣や地域社会に関心を持つ態度を育てるとともに、各教科等で「学びの型」を活用し、自分の考えや意見を発表する場を多く設けることにより、総合的な応用力を育成していきます。

② 学校質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%を上回っている主な項目】

質問事項	小学校	中学校
授業で扱うノートに、学習のめあて(ねらい)とまとめを書くように指導しましたか。	100%	100%
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。	94.7%	100%
算数(数学)の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。	100%	100%
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。	93.0%	100%
児童・生徒に対して、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。	98.2%	92.9%

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%を下回っている主な項目】

質問事項	小学校	中学校
博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。	35.1%	7.1%
前年度に、長期休業を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。(5日以上)	2.0%	39.2%
前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。(週1回以上)	15.8%	3.6%
算数(数学)の授業において、前年度に習熟の遅いグループに少人数指導を行いましたか。	7.1%	21.4%
算数(数学)の授業において、前年度に習熟の早いグループに発展的な内容を指導しましたか。	8.8%	10.7%

各学校では、ほぼ100%の割合で、算数・数学を中心に各教科の学力向上を図るために、授業のめあてとまとめを板書し、それをノートに書く指導や算数・数学の授業において計算問題等の反復練習を行うなど、基礎学力の定着を図っています。また、各教科等で、調べたことを書くなどの言語活動を適切に位置付け、活用力の育成も図っています。

今後は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%を下回っている図書館等の計画的な利用や習熟度に応じたきめ細かな指導、補充的な学習サポートを、本市「教育環境パワーアップ事業」などによって推進するとともに、各教科等で「学びの型」を活用し、基礎学力の定着と総合的な応用力の育成を図っていきます。